

監理と施工

【No. 1】 工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 請負契約案の作成
2. 工事の確認及び報告
3. 施工計画書の作成
4. 施工図の検討及び承諾

〔解説〕 施工計画書は施工者が作成する。
出典「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P347～349 参照

答. 3

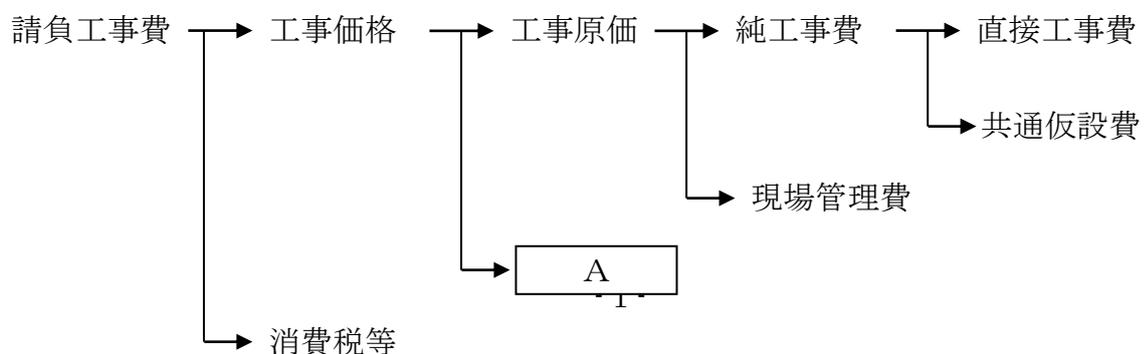
【No. 2】 積算・見積りに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 概算見積りとして、部分別による床・壁・天井毎の複合単価によって工事金額を算出する方法がある
2. 積算の数量の種類は、設計数量、積算数量、所要数量である
3. 部分別見積りとは、複合単価または合成単価で記載する場合があります、エレメント方式ともいわれている
4. 建築数量積算基準では、数量とは原則として、設計数量をいう

〔解説〕 積算数量ではなく、計画数量
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P356～358 参照

答. 2

【No. 3】 工事費の構成に関する以下の図の中で、 部分に入る最も適当なものはどれか。



監理と施工

1. 一般管理費等
2. 直接仮設費
3. 共通費
4. 運搬費

〔解説〕積算体系上の工事費の構成を示したもの。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P380 参照

答. 1

【No. 4】 工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 民間連合協定「工事請負契約約款」によれば、現場代理人は工事の一切の事項を処理し、その責任を負う
2. 随意契約とは、発注者が任意に選定した特定の請負者に対して発注する方式である
3. 一般的に随意契約の決め方には、特命随意契約と見積り合わせの二つがある
4. コストオン発注方式は、一式請負と共同請負方式をミックスさせた請負方式である

〔解説〕コストオン発注方式は、一式請負と分割請負方式をミックスさせた方式
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P361～363 参照

答. 4

【No. 5】 工事契約及び工事請負に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか

1. 発注者が施工者を任意に選定した特定の請負者に対して発注する方式を随意契約という
2. 契約書は工事請負契約書及び工事請負契約約款を用いて、発注者と請負者が対等の立場に立った契約を結ぶ
3. 品質管理は品質が設計図書ならびに契約条件に合致し、適切な水準を確保するように管理することである
4. 瑕疵担保責任とは、保証されるべき品質の欠陥に対し、工事監理者が修理、補修、損害賠償を負うべき責任である

監理と施工

〔解説〕「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P349、P357、P361～363 参照

答. 4

【No. 6】 ガラスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 合わせガラスは、2枚の板ガラスに透明な中間膜を挟み加熱圧着したもので、耐貫通性にすぐれている
2. 強化ガラスは通常の板ガラスに比べ3～5倍の強度があり、万一破損した場合、フロートガラスに近い割れ方になる
3. 線入りガラスは割れてもガラスが飛散しにくい、延焼のおそれのある部分に使用することはできない
4. すり板ガラスは表面に無数の細かい傷があり、同じ厚みの透明ガラスに比べ曲げ強度などが弱い

〔解説〕強化ガラスは、破損した場合に粒状になる。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P392～394 参照

答. 2

【No. 7】 建材の一般的な呼称と名称に関する次の組み合わせのうち、最も適当なものはどれか。

1. 赤れんが …………… 耐火れんが
2. 軽石 …………… 凝灰岩
3. 耐火ガラス ……… 熱線反射ガラス
4. カラー鉄板 ……… 着色亜鉛鉄板

〔解説〕「赤れんが」は「普通れんが」、「軽石」は「抗火石」、「耐火ガラス」は「低膨張ガラス」など
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P389、P391、P393、P394 参照

答. 4

監理と施工

【No. 8】 材料と比重の組み合わせに関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. ポリカーボネート板 …… 1.0
2. セメントモルタル …… 1.7
3. 板ガラス …… 2.5
4. アルミニウム …… 3.3

〔解説〕 ポリカーボネート板……1.2 セメントモルタル……2.1 アルミニウム…… 2.7
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P392～394、P397 参照

答. 3

【No. 9】 機能・性能と材料に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. 耐火被覆 …… ケイ酸カルシウム板
2. 断熱 …… 硬質ウレタンフォーム
3. 遮音 …… グラスウール
4. ヒートアイランドの緩和 …… 保水性舗装

〔解説〕 グラスウールは吸音には適するが、遮音には適さない。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P390、P404、P405 参照

答. 3

【No.10】 材料と防火性能に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 準不燃材料は不燃材料ではないが、難燃材料に含まれる
2. 不燃材の下地に施工した壁装材等で、特に不燃材として認められたものは基材同等製品である
3. 木毛セメント板は認定壁装材料である
4. 防炎処理とは材料に難燃液を塗布して難燃処理を行うことである

監理と施工

〔解説〕「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P411 参照

答. 3

【No.11】左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタル塗りは内外装の壁、床等のモルタル仕上げ、及びタイル張り下地等に使用する。
2. せっこうプラスター塗りは厨房や地下など多湿で通気不良の場所では使用しないようにする。
3. セメントモルタル塗りの塗り厚は、剥離のおそれがあるため、床を除き 25mm 以下とする。
4. せっこうプラスター塗りにおいて、コンクリート下地、ラス下地などは急速に硬化が進むため、直接下塗り及び中塗りをして上塗りを行う。

〔解説〕直接塗りではなく、セメントモルタルを下塗りする。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P372 参照

答. 4

【No.12】塗装工事に関する次の記述の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. パテ処理 …………… 硬化後研磨
2. ローラーブラシ塗り ……… 広い面積に有効
3. 吹付け …………… 均一な塗膜形成
4. はけ塗り …………… 焼付け工法

〔解説〕焼付け塗装にはけ塗りは行なわない。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P374 参照

答. 4

【No.13】内装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

監理と施工

1. ビニル床シート張りにおいて、モルタル塗下地の場合は施工後2週間以上放置し乾燥させて施工する
2. カーペット敷きにおいて、カーペットは模様拘らずランダムが基本である
3. フローリング張りにおいて、商業施設では一般的に乾式の釘留め工法と接着工法が用いられる
4. 合成樹脂塗床において、商業施設では一般的に厨房の床仕上げ、店舗の意匠仕上げとして用いられる

〔解説〕カーペットは仮敷きしてパイルの方向・柄合わせを行い、割付する。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P375 参照

答. 2

【No.14】防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルト防水の工法として、アスファルトを加熱溶融し塗布する熱加工法によるものと常温用アスファルトを使用する冷工法とがある。
2. アスファルト防水の工法として、改良アスファルト工法は煙害、臭気は多く発生するため商業施設での使用は禁止されている。
3. シート防水の特長として、耐候性が優れているため、露出防水にも適用されているが、商業施設でも比較的好く使用されている。
4. シート防水とは、高分子ルーフィング1層を接着剤で張り付ける防水であり、火を使わない、施工が簡単などの特長がある。

〔解説〕改良アスファルト工法は煙害、臭気が少ない（商業施設での使用も禁止されていない）。
「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P366 参照

答. 2

【No.15】各種工事や材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. タイルの種類は、原料と焼成温度の違いにより、陶器質、ガラス質、せっき質の3つに分類されている
2. 建具工事は使用場所によって耐風圧性、気密性、水密性などに関して所定の性能を要求される

監理と施工

3. 内装工事では下地の精度が大切で、仕上げ工程の前には必ず下地の検査が必要である
4. 家具・什器工事の寸法には人・物・空間の3つの要素がかかっているが、基本的には人体寸法を基準にして機能的な寸法が決められている

〔解説〕「商業施設・創造とデザイン」改訂新版 vol-5 P368、372、375～376 参照

答. 1